

玉縄城まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井 章 ☎ 0467-45-7411 〒247-0073 鎌倉市植木425-16
E-mail artbank21@nifty.com URL https://tamanawajo.jp/



玉縄城と地域の素晴らしさを見つめて

城域5拠点31か所の発掘調査の総括研究と発表へ

市と市民の協働による挑戦

◆地域の誇りである玉縄城―そこには歴史的にも城郭としてもまだ多くの謎が残されています。そのため玉縄城址をランドマークとする地域住民にも「玉縄城と地域の素晴らしさ」がまだ理解されていないのです。しかしその答は未公開資料の中にありました。

昭和50年代からこれまで鎌倉市文化財課が進めてきた玉縄城域発掘調査、とくに城域31か所の発掘の膨大な資料の中にまだ総括されず未公開のまま。そして当会が15年間積み重ねてきた玉縄城の調査の中にもー。

◆これら資料に光を当てたい。私たちの地域のために市と市民の協働によって「玉縄城と地域の素晴らしさ」を証明し伝えたい。◆それが「城域5拠点31か所」の総括研究プロジェクトです



玉縄八幡宮とは？、三代城主綱成の館とは？城下町植木新宿や川湊の実体は？謙信も信玄も攻略を諦めた堅固な城郭の秘密とは？六代城主氏勝から徳川家康へ江戸期へそして現代へ受け継がれた早雲の「民のための国づくりの志」とは？そしていま私たちの暮らす玉縄城域がなぜ素晴らしい地域といえるのか？それらを市と市民の協働で解明する計画です。

◆研究陣には伊藤一美、玉林美男、大竹正芳の先生方に、小和田哲男、千田嘉博、黒田基樹、伊東潤など各氏にも参加を依頼します。歴史学、考古学、城郭史学など多角的な見地から進めるこの鎌倉鎮護の玉縄城の総括研究は、令和5年4月より開始します。

◆十月十七日、鎌倉市長にこの文化庁補助事業の共催を提案、深く理解を頂いたことで、私たちは計画の実現に自信を深めました。

◆これまでにやってきたこと
・玉縄城築城500年祭推進
・玉縄城址を守ってきた16年間
・城址研究シンポジウム65回
・歴史の道七曲坂整備改修の実現
・太鼓橋址周辺の市民緑地の実現
・蹴鞠場、矢射場の再発見と保全
・玉縄城址史跡指定方針決定へ提案
・文化庁地域文化財活用事業の推進
・玉縄歴史館の活用と拡充
・歴史館ギャラリーの創設
・市民学芸員の育成と活動
・小学生体験学習1万2千名対応
・中高大学生のボランティア参加
・大学博物館学の実習機関に指名

◆これら指導する先生、多様な才能をもつ仲間、そして市民行政が協働し、一緒に汗をかいたからこそ、実現したことです。神奈川県ボランティア活動奨励賞も受賞しました。当会はこれからも産官学市民の協働によって事業を進めていきます。

◆玉縄歴史館は市民の博物館
文化庁補助事業で市民学芸員が誕生、館内を案内し、高校生や大学生が参加して企画や制作の実践を楽しむ体験学習にも対応しています。
歴史館ギャラリーでは地域の歴史や生態系、アートを「意外性のある演出」で企画展示を進めています。
重文古民家は本格的な「四季の設え」で参観者を迎えています。
◆玉縄城址を守るボランティア
月例の七曲坂、市民緑地の美化と城址の森の保全活動、倒木処理、竹林整備などボランティア活動を休まず進めています。環境インストラクター育成講座も実施しています。

◆トピックス情報
JR大船駅と協力して実施する、「駅からハイキング」を令和5年3月1日から31日まで実施することが決まりました。「謎に包まれた鎌倉鎮護の名城、玉縄城址・城下を巡るコース」に沢山の人が訪れます。当会の活動目標の一つ「玉縄城址歴史トレイル」が動きだします。鎌倉にもう一つ歩く歴史観光の場所が生まれるのです。

◆「有難う！」と言ってもらう
それが私たちの「目標」です。
活動16年目、これからも人に地域に役立つことをめざし、楽しみながらボランティアの汗を流します。

令和二年の玉繩歴史館では多彩な講師による玉繩城址や重文古民家を最新の表現で可視化する連続スキルアップ講座を開設した。

◆古文書花押解説講座

講師 伊藤一美

「花押」で分かる城主の気構え。

・後北条氏始祖宗瑞と氏綱、氏康文書

・玉繩北条氏初代の氏時、為昌文書を読む。

大型TV採用により、

花押を詳細に分析して

城主の特徴や時代背景

や性格まで推測するこ

とができた。

「非破壊検査による

古文書の比較検証」を

学び、その正確さに驚

かされた。



◆映像プロジェクトの活用法

講師 渡邊哲哉

プロジェクトのマッピングとその活用

「建造物をマッピングするとどうなるか？」

◆最新のAR/VRを学ぶ

講師 長澤可也

湘南工科大学教授コンピューター応用学

で玉繩城址のAR/VRは可能か？



◆歴史講座

「蒔田の吉良氏が玉繩城へ避難」

阿諏訪青美

横浜歴史博物館 中世史学芸員

戦国史の大事件(1560) 上杉氏の越

山・関東侵略による後北条氏の対応、蒔田

城の吉良氏の三百人の華麗な行列が玉繩城

へ避難。玉繩城の役割・関係した家臣・玉

繩城域の人の関わり方を学ぶ。

対談 「上杉謙信越山と関東管領職就任儀式」 阿諏訪青美/伊藤一美

◆市民学芸員大活躍

館内展示の見やすい可視化、

学芸員の創造性で大改造。

高校生ボランティアの活躍

もめざましく館内は一層楽

しい体験学習の場になった。

◆収藏品や活動記録映像は

上村学芸員、展示民具補修

は川上学芸員、収藏品の資

料カード管理とデジタル入

力は松本妙学芸員が担当した。



◆地域文化財の調査研究ギャラリー企画展
鎌倉歴史文化交流館で開催した「戦国時代の鎌倉展」を玉繩歴史館に移し、当会の資料を加えて展示した。

十月には鎌倉芸術祭に参加、古民家とギャラリーを舞台に「大竹正芳アバンギャルド展」でブラジル音楽で新境地を開いた、大竹正芳画伯がはじけた。

◆中・近世の石塔調査

市民学芸員による数回のフィールドワークで実現した。玉繩城域の玉繩城家臣屋敷のやぐらと石仏の調査開始、龍寶寺にある江戸期松平陣屋所縁の七十基の石塔を学芸員全員で調べ、時代の比較、域内の古刹の石塔を見学した。

さらに旧鎌倉で大巧寺や極楽寺忍性墓や

上杉憲方の石塔を調べ、学芸員が知恵と汗

をかき一丸となり玉繩城域の石塔群と旧鎌

倉の比較検証と相違点を話し合った。玉林

美男講師の助言と県立生命の星博物館専門

学芸員地質学者山下浩之講師から石塔の素

材安山岩と相模大地との関わりを学んだ。

三年がかりのこれらの成果を「玉繩城下

の石塔展」として、令和四年一月から四月

まで展示できたのは大きな収穫だった。



◆令和三年三月
龍寶寺「玉繩歴史館観光トイレ」が完成。神奈川県から助成をうける。



◆当会15年の玉繩城址、玉繩歴史館の市民活動に対し神奈川県ボランティア活動奨励賞を、黒岩祐治知事から受けた。



◆視聴覚教材やギャラリー展示費用・撮影費用は公財大成建設自然・歴史基金助成金を活用した。

文化庁令和四年度文化芸術振興費補助
鎌倉・玉縄城址を活かす歴史ミュージアム事業

◆五月ギャラリー企画展『鎌倉の城郭展』城郭史学者大竹正芳三十年の成果。鎌倉の城郭技術の集積が玉縄城を難攻不落の城とした。

◆玉縄城跡の発掘調査報告書調べ(玉林講師)

◆「玉縄城五つの拠点」の存在が大きく浮かんた。

◆「西の拠点」と「東の拠点」の探索会を実施。

◆九月学芸員企画『鎌倉の自然蝶・野鳥・魚』三人の研究者の写真展が大きな評判となった。



夏休みイベント
県埋蔵文化財センター
の出前ワークショップ
縄文土偶のレプリカづくりに挑戦した。

鎌倉女学院高等学校から「社会体験ボランティア」が七月から十月まで三十二名参加し楽しみながら学んだ。



玉縄城周辺の地形 S29年



航空写真 S29年

鎌倉鎮護の城、玉縄城は伊勢宗瑞が武家の古都鎌倉を守り、関東に民のための国づくりを念じ造られた。鎌倉街道の要所に五角形の本丸と広大な城域を持つ城の様相が、近年の研究によって解明されてきた。上の航空写真は昭和29年の米軍撮影、右の図は市文化財課作成の玉縄城周辺の地形図である。

十一月シンポジウム

「戦国時代の鎌倉・玉縄城域の隠された真実」

一、玉縄城域の発掘成果からみえてくるもの

玉縄城の総構え、五つの拠点の役割りとは。

本丸と池状遺構、七曲殿館、東の防衛拠点「綱成の館」西の防衛拠点は「清水小路」渡内、高谷。

二、三つの時代

◆伊勢宗瑞と北条氏綱・氏時(1512~1542)

鎌倉大戦の三浦道寸と宗瑞の攻防。その後、宗瑞は極楽寺、化粧坂、荏柄天神周辺の道普請を行う。海路の発達、房総への侵攻、武家の古都鎌倉の再建。氏綱は命がけて鶴岡八幡宮の造営。綱成と大長院殿の婚姻により北条氏の御一家衆となる。

◆氏康と綱成(1543~1560)

上杉謙信の越山、関東侵略により、関東に緊張が走り、城の増強。玉縄城「塀作事」陶山文書

◆氏繁と氏勝(1560~1590)

玉縄城主の氏繁と新光院殿の婚姻、玉縄城主の役割と文化活動。蹴鞠場、池状遺構、氏繁の鷹の絵、出陣次第、籠の館「池状遺構」の様相は、室町文化と鎌倉文化の融合。秀吉の全国統一、徳川家康の仲介で玉縄城は開城する。

三、玉縄城の謎

◆諏訪壇と八幡宮の謎。発生はいつか、何処か。

◆城郭考古学から見えてきたこと。鎌倉時代の城郭の継承。小田原城とは全くちがう城郭。

令和五年度には「玉縄城の真実」を検証。

玉縄城の本当の姿を玉縄城跡発掘調査報告三十一カ所をもとに検証し、広大な玉縄城の役割を城郭考古学の考察を加えて証明したい。

副会長 荒井幸子

七曲坂と市民緑地の定例清掃

この二つの活動は当会の活動の原点であり骨格ともいえるものです。活動参加者の減少・高齢化等が続いていますが、スポット的に高校生たちが参加したりして、増加の兆が感じられるようになりました。そのうち一人の高校生は当会の会員となり、活動にも参加されています。

◆七曲坂

「歴史の道七曲坂」の美化活動は鎌倉市のアダプト・プログラムとして実施しています(市との覚書による当面の実施期間は2025年10月末まで)。今年は15年目。毎月第4土曜日に「アダプト・プログラム」の手作りの幟を掲げて活動しています。

(トピック)

七曲坂のシンボルとも言われた冠木門は、2012年の玉縄城築城500年祭用に設置されたものでベニヤ板作り。イベント終了後もそのまま残されましたが、倒壊の危険が迫ってきたため、本年6月4日に解体撤去されました。



今年10月、高校生3人が加わり華やいだ



フクロウの巣箱かけ後、清掃を行った市民緑地の12人(うち鎌女生6人)



「玉縄城址環境インストラクター育成講座」蹴鞠場の刈払いを終えて



初めて開催した「大人の緑地体験会」の参加者(三角平場)

◆市民緑地

「市民緑地(太鼓櫓址)」の美化活動は、2012年の市民緑地開設と同時に設立された「玉縄城緑地愛護会」(メンバーは当会会員とほぼ同じ)が行っています。今年も10年目。

(トピック)

①近年各地の山林で見られるナラ枯れの症状が2020年、市民緑地のコナラの太木2本にも現れました。うち1本は市が早めに伐採、一本は2022年8月に強風により根こそぎ倒れました。ナラ枯れの木が無くなったことにより、市民緑地が明るくなり本丸方面の見通しもよくなりました。

②市民緑地の範囲は2017年に拡大され、みどりこども園の南側の真竹林も含まれています。

当会は2021年末からこの真竹林の整備に取り組み、今年も真竹林から掘切に上る歩行ルートを開設しました。

緑地でのその他の活動と特別なこと

2021年度は、「玉縄城址環境インストラクター育成講座」、玉縄城址子ども探検隊に加え、初めて大人の緑地体験会(16人参加)を行いました。

今年さらさらに、城址中心部の緑地の刈払いの拡大等も計画しましたが、コロナ禍等での清泉女学院の事情により、学校内の緑地での活動は一時中断することにしました。

このため、「玉縄城址学芸員育講座」(「玉縄城址環境インストラクター育成講座」から名称変更)の一部や他のイベントは、活動場所を変更して実施することとしました。

今年、学校外での緑地の活動を中心にすることで、玉縄城址全体の緑地を見直す良い機会となりました。

担当理事 松田 明

◆市民緑地の野草 ツルボ

夏の終り頃に淡いピンクと少し紫色の混ざった可憐な穂状の花を付けます。今年も「植木1号市民緑地(太鼓櫓址)」の案内板前に可憐な花を見せてくれました。同じ時期に咲くヤブランと間違え易いが、ツルボは葉が少なく柔らかい。葉を揉むと仄かにネギのような香りがします。ヤブランは葉が多く硬いという違いがあります。名前のツルボは、球根の皮をむくとツルツル坊主になる事から付いたらしい。来年も沢山咲いてくれるように期待しましょう。

副会長 増川勇次郎



ツルボはキジカクシ科の草本

◆七曲坂と市民緑地の美化清掃

玉縄城址を美しく保全するための奉仕です。城守(しろもり)の気分になってみませんか?

(作業日)

市民緑地：毎月第3土曜日

七曲坂：毎月第4土曜日

(時間)

午前9時～11時

どなたでもご参加できます。用具は用意しています。

0467-45-7411